

【資料1】ユニバーサル推進体系及びユニバーサル推進本部等の設置について

1 ユニバーサル推進体系

(1) 総合計画上の位置付け

○現時点におけるユニバーサル(共生)に関する総合計画体系は、次のとおり。

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン(ビジョン編)	○「まちづくりの重要概念」に「ユニバーサル(共生)※」を位置付け ※ユニバーサル(共生):誰もが多様性を尊重し、互いに手を携え、心豊かにつながる。また、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと
第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン(戦略編)※策定作業中	○「分野横断的に取り組む施策」として「ユニバーサル(共生)プロジェクト」を位置付け ○「プロジェクト推進による10年後の札幌市」「2031年までのロードマップ」「成果指標(現状値・目標値)」を整理
アクションプラン2023(2023~2027)※策定作業中	○重要概念「ユニバーサル」等を意識した事業を整理

(2) 推進の視点

○ユニバーサルの更なる推進に当たって必要となる視点は、次のとおり。

- ・戦略編に記載予定の2031年までのロードマップや成果指標を達成するため、「事業」レベルのより詳細な目標を検討(アクションプラン2023以降も見据える必要)
- ・従来の政策分野を超える複合的な課題に対し、庁内横断的な検討の促進
- ・建築物・旅客施設のバリアフリー化の充実などの特に官民連携が必要な取組について、民間施設も含めた対応策を継続検討
- ・バリアフリー化のみならず、施策全般について市民・事業者との協働が必要であるため、ハード整備を待つことなく、先行してソフト事業を強化
- ・オリンピック・パラリンピックの招致等を契機に、民間を中心とした取組の加速化が期待

(3) 対応

○(2)の視点を踏まえ、総合計画体系を除くユニバーサル推進体系として、**令和5年度中の「(仮称)ユニバーサル展開プログラム」の策定と、令和6年度末の「(仮称)共生社会推進条例」の制定**を目指す(詳細は資料2のとおり)

(参考)推進体系図



2 ユニバーサル推進本部(庁内組織)の設置

(1) 設置目的

○ユニバーサル関係施策を庁内一丸となって強力に推進すること

(2) 任務

- ユニバーサル関係施策に係る情報の収集及び共有
- ユニバーサル関係施策の企画、調整及び推進、個別プロジェクトの推進 など

(3) 組織

本部長	市長
副本部長	3副市長
本部長	市長室長、まちづくり政策局長、まちづくり政策局都市計画担当局長、市民文化局長、スポーツ局長、保健福祉局長、保健福祉局障がい保健福祉担当局長、子ども未来局長、経済観光局長、経済観光局観光・MICE担当局長、建設局長、都市局長、交通事業管理者、教育長

※上記のほか、施策の進捗等を踏まえ、関係局長等の追加出席も想定

3 ユニバーサル推進検討委員会(庁外組織)の設置

(1) 設置目的

○ユニバーサル関係施策等に知見を有する学識者や当事者団体から多様な意見を聴取し、市政に反映させていくこと

(2) 委員一覧(計14名)

	氏名※	主な経歴	主なテーマ
1	浅香 博文○	公益社団法人札幌市身体障害者福祉協会会長	障がい
2	牧野 准子○	ユニバーサルデザイン(有)環工房代表取締役	
3	梶井 祥子○	札幌大谷大学副学長(社会学部地域社会学科教授)	性別
4	柳谷 由美	さっぽろレインボープライド実行委員会実行委員長	
5	池田 望	札幌医科大学保健医療学部作業療法学科教授	高齢者
6	佐藤 理良○	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会在宅支援推進部長	
7	相内 雄介	Mental-Consul 代表	子ども
8	加藤 信行	北海学園大学法学部教授	
9	高橋 彩○	北海道大学理事・副学長	国籍(多文化共生)
10	宮入 隆	北海学園大学経済学部地域経済学科教授	
11	北原 モコットウナシ	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授	民族
12	結城 幸司	札幌アイヌ協会共同代表	
13・14	公募委員	未定(令和5年10月選定予定)	

※○は第2次戦略ビジョン審議会委員を指す。テーマごとに五十音順で記載。